

## ぼくのきつ音

小 五

ぼくは「きつ音」というしように害がありません。

きつ音には、難発、伸発、連発という種類があります。難発は例えば「：アイス」という最初の言葉が出にくいしように状です。伸発は「ア―イス」という言葉をのばすしように状で、連発は「アアアイス」という言葉を連続して言ってしまうしように状です。

このようなしように状が出るきつ音の原因は分かっています。きつ音には波があります。きつ音が多く出るときと、きつ音があまり出ずに話すことができるるときがあるということです。ぼ

くは家などのリラックスしているときはきつ音が多くて、学校の発表のときはきつ音が少ないです。

きつ音は百人に一人いると言われていきます。例えばアメリカの大統領「ジョー・バイデン」もきつ音があります。それから徳川十五代将軍の三代目「徳川家光」もきつ音があったと言われている。このようにきつ音はだれもがなるしように害なのです。

きつ音がある人は話し方がふつうの人とちがうので、話し方を通じていやな思いをすることが多いです。ぼくはあまりいやな思いをしたことはありません。けれど話し方をばかにされたり、真似されたりすると悲しい気持ちになる人もいます。自分のせいできつ音になったわけではないのに、いやな思い

をするのはかわいそうだと思えます。

きつ音がある子たちのために、「ことばの教室」というところがあります。そのことばの教室は、きつ音の子やなんちようの子たちが通っている教室です。ぼくはA小学校のことばの教室に行っています。そこには三十人ほどが通っています。その中にきつ音の子は十人ほどいます。きつ音のことや言葉のなやみのことなどを、何でも話してよいところでは、そこでは自分のきつ音がどれくらい出ているか自己評価したり、音読の練習をしたりしています。ぼくもその教室に一年生の最初から通っています。そこできつ音のことを話しています。

ぼくがきつ音でいやな思いをしたことがないのは、ぼくが一年生のときに、

ことばの教室の先生が「きつ音理解授業」を学年のみんなにしてくれたおかげです。だから今、自分のきつ音をみんなが分かってくれています。ばかにしたり、真似したりする子がいなくなりました。

しかし、きつ音があっても、このことばの教室を知らなくて、いやな思いをしている子たちがたくさんいると思います。そんな子たちにできるだけ早くこの教室を知ってもらい、きつ音でいやな思いをしている子を、一人でも減らしてほしいです。

きつ音でいやな思いをしていたり、一人でなやんでいたりする子に伝えたいことがあります。いやな思いを一人でなやまないで、ちゃんと信じられる大人に相談してなやみを一秒でも早く

なくしてください。

最後にきつ音の子が話しているときにしてほしいことを伝えます。きつ音があってもいっぱい話したい子はたくさんいます。きつ音があっても話をさえぎらず、話し終わるまで待つて最後まで聞いてあげてください。そうしてもらえると自分もうれしいです。